

毎年多彩なプログラムが行われる「北軽井沢ミュージックホールフェスティバル」。今年も8月3日～9月1日の期間中、恒例のクラシックコンサートやミュージックセミナーをはじめ、ジャズ、カントリー、地元の若手ロックバンドなど15のプログラムが開催された。



vol. 30 日本初! 音楽を学ぶ学生のための 山の音楽堂

【北軽井沢ミュージックホール】

100人を収容できる
半野外のコンサートホール

北軽井沢交差点のすぐ近くに建つ、ト口な木造の建物から、この夏もさまざまな音楽の音色が響いてきました。外観からは中の様子が見えにくいこともあり、北軽井沢をよく知っている人でもここが音楽ホールだと知らない方も多いかも知れません。建物のなかは、中庭を中心に、100人ほどを収容できる大ホールと、練習用の分奏室などが回廊づくりに結ばれています。ホールはシャッターを開放すれば半屋外のコンサート会場となり、鳥の声や風が木々を揺らす音とともに演奏を楽しむことができるのが、ここ「北軽井沢ミュージックホール」ならではの醍醐味です。

北軽井沢ミュージックホールが正式にオープンしたのは、今から51年前、1968(昭和43)年の8月のこと。前年までに完成していた分奏室などに加えて、オーケストラが一堂に会して演奏できる待望の大ホールが完成し、桐朋学園オーケストラによるこけら落とし公演が行われました。ホールの開館は新聞などでも多く取り上げられましたが、それには理由があります。北軽井沢ミュージックホールは単なる避暑地のコンサートホールではなく、日本で初めての音楽を学ぶ学生のための本格的な合宿施設だったからです。

学生のための合宿施設を ここ北軽井沢に

ミュージックホール設立のきっかけは、日本を代表する指揮者・音楽教育家の斎藤秀雄さんが開いた音楽を学ぶ子どもたちのための夏の合宿でした。昭和30年代、桐朋学園に音楽科をつくり、子どもの音楽教育に力を注いでいた斎藤さんは、夏の間、北軽井沢にある山荘に子どもたちを集め特訓を行いました。参加する生徒が多くなったため、合宿は北軽井沢小学校(当時は町立第三小学校)の教室を借りて行われるようになり、その合宿には斎藤さんの門下生でまだ二十歳前後だった小澤征爾さんも参加していました。

小学校での練習も手狭になった頃、斎藤さんの教え子の両親である田中泰雄さん・テルさん夫妻が、「ここに学生たちの本格的な練習施設をつくってください」と、北軽井沢に所有していた

03.日本初の学生のための本格的な合宿施設として、ホールの完成はマスコミにも注目された。04.改修工事前のミュージックホール。当時は宿舍や食事室、調理室も付設され、田中テルさんはじめ保護者らが滞在中の学生のために食事なども用意した。05.クリスマスチャンであった田中テルさんによるホール完成までを綴った回顧録「神『山の音楽堂』を完成し給えり」。06.田中泰雄さんテルさん夫妻。(以上の写真は田中家所蔵。)



01. 02. 1968年8月、斎藤秀雄さんの門下生・秋山和慶さんの指揮、桐朋学園オーケストラの演奏により、北軽井沢ミュージックホールのこけら落としが行われた。



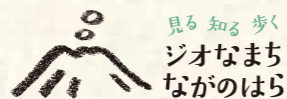


【ふるさと納税型クラウドファンディング】

北軽井沢ミュージックホール ピアノ修復プロジェクト

北軽井沢ミュージックホールの片隅に置かれた一台の古いグランドピアノ。1925年のドイツ「Grotorian Steinweg (グロトリアン・シュタインヴェグ)」社製の珍しいこのピアノは、設計・材料・技術ともに最高級といわれ、クララ・シューマンをはじめ多くのピアニストらに愛されてきた名器です。ミュージックホールには開館当初から置かれていたと考えられますが、正確な経緯は不明。現在は別のグランドピアノが演奏に使われているため、傷んだ状態のままとなっていました。ミュージックホールサポーターズや音楽家から「ホールの歴史を象徴するこのピアノをもう一度蘇らせて」との声があがり、このほど「ふるさと納税型クラウドファンディング」という形で寄付を募ることとなりました。半年ほどかけて修復した後は来夏に開くコンサートでのお披露目を目指しています。ぜひ、ご協力ください！

募集期間 2019年7月26日～9月30日
目標金額 100万円
支援方法 一口3千円～10万円(寄付額のうち2千円を超える部分は税額から控除)。詳しくはインターネットまたは書面(町発行のチラシ)をご覧ください。
問い合わせ 総務課 ふるさと納税担当



どの改修工事に着手しました。このとき結成されたボランティア団体「北軽井沢ミュージックホールサポーターズ」(会長：神倉稔)が、その後もホールの維持管理業務を担当。2007(平成19)年には改修工事も終了し、リニューアルされたホールでは8月の一ヶ月間、様々な音楽公演が開かれる。「北軽井沢ミュージックホールフェスティバル」が行われ、今では夏の北軽井沢の恒例イベントとなっています。

◎今回紹介したのは…

北軽井沢ミュージックホール

参考資料：フリーペーパー『きたかる』(vol.2)、「神『山の音楽堂』を完成し給えり」(田中テル著)



土地を提供することを申し出ます。土地を寄付するだけでなく、資金の調達や財団法人の設立、運営や管理に奔走する田中夫妻の動きに感銘を受け、斎藤秀雄さんの教え子や保護者らも次々と協力。ホール以外の宿舍や食事・調理室などの工事も含め、4年間をかけて北軽井沢ミュージックホールは整備されていきます。完成後のホールは、桐朋学園だけでなく東大、農工大、女子美大など、多い年には年4千人以上の音楽を学ぶ学生たちに利用されました。

町民と関係者がひとつになって ホールを復活！

1983(昭和53)年、財団法人北軽井沢ミュージックホールは解散、ホールは長野原町に寄付されることとなり、以降も夏のコンサートの場として存続してきました。しかし年月とともに建物の老朽化も進み、往時の賑わいも少しずつ遠のいていきます。そんな様子を見かねて活動を起こしたのが、桐朋学園の卒業生でかつてミュージックホールで合宿した経験もある音楽家の大島文子さんと姉の直子さん姉妹。2005年、セミナーを開きながら建物修復のためのチャリティコンサートを開催します。大島さん姉妹に共感した北軽井沢地域の有志も清掃活動などに協力し、要望を受けた町も屋根の修繕な

北軽井沢ミュージックホールを 愛した音楽家たち

半世紀の間、多くの音楽家に親しまれてきたミュージックホール。下記に紹介する人びと以外にも、著名な音楽家によるコンサートや大江健三郎さん、谷川俊太郎さんなど北軽井沢ゆかりの作家らの講演等もたびたび開かれてきました。



寺島尚彦さん

【1930年7月4日～2004年3月23日】

栃木県出身の作詞家・作曲家。3歳の頃から夏は北軽井沢大学村の別荘で過ごし、北軽井沢を「ふるさと」とも語っている。1962(昭和37)年、長野原町立第三小学校(現在の北軽井沢小学校)の校歌を作曲(作詞は谷川俊太郎さん)し、文化祭での校歌の発表に合わせて小学校を訪問、歌詞指導も行った。また北軽井沢浅間鬼押し太鼓の「浅間六里ヶ原太鼓」などのオリジナル曲も提供。北軽井沢ミュージックホールでは、北軽井沢区などの働きかけにより、1997年から2004年まで8回にわたり区民コンサートを主宰。没後の2004年以降は「北軽井沢秋いちばんコンサート」と改称され、寺島さんのご家族、葉子さん(夫人)、樹子さん(娘)、夕紗子さん(娘)を中心とした洗足学園音楽大学メンバーらによってコンサートが続けられている。



斎藤秀雄さん

【1902年5月23日～1974年9月18日】

日本のチェロ奏者・指揮者の草分け的存在で、戦後は音楽教育家として多くのクラシック演奏者や指揮者を育てる。1948年、桐朋学園の音楽系学科開設のきっかけとなる「子供のための音楽教室」を開き、その後、同学園女子高校音楽科、短期大学、桐朋学園大学音楽学部の開学に尽力し、桐朋学園音楽部門の一環教育の体制を作る。北軽井沢の大学村の山荘にて、音楽コンクールを受ける生徒の夏の特別に始め、1955年からは北軽井沢小学校での合宿を開始。田中夫妻と共にミュージックホール設立に関わり、財団法人北軽井沢ミュージックホールの初代理事長を務める。



小澤征爾さん

【1935年9月1日～】

世界で活躍する日本人指揮者。新日本フィルハーモニー交響楽団を創立したり、ボストン交響楽団やウィーン国立歌劇場の音楽監督も務めた世界的な指揮者。中学生の頃に斎藤さんの門下生となり、創立された桐朋女子高校音楽科、桐朋学園大学短期大学で斎藤さんの厳しい指導を受ける。北軽井沢の山荘で行われていた夏期特訓にも参加し、小学校を借りたオーケストラの夏の合宿で斎藤さんの代わりに指揮を執る姿や、校舎を借りたお礼として開かれた演奏会での指揮姿など、今でも当時の小澤さんを覚えている北軽井沢住民も多い。短大卒業後、単身ヨーロッパに渡り、国際指揮者コンクールで優勝するなど国際的な指揮者としての道のりを歩むが、帰国した際にはチャリティコンサートを開きミュージックホールの設立に協力。斎藤秀雄さん没後は、財団法人北軽井沢ミュージックホールの理事長に就任した。

ふるさと 再発見

【30】

—文化財だより—

横壁石仏公園の 【仁王像】

仁王像(金剛力士像)は、一般に寺院の山門の左右に安置され、伽藍を守護しています。手に金剛杵をもち、もとは一つの神格ですが、日本では二神一対が多く、向かって右が口を開いた阿形、左が口を閉じた吽形で一対をなしています。二人以上で一つの事をする

ときに気持ちの一致する、絶妙なタイミングを「阿吽の呼吸」といいますが、その語源ともいわれています。像高は阿形が149cm、吽形が147cmを測り、地元で小豆石と呼ばれる赤黒い安山岩の丸彫りで、江戸時代中期の享保12(1727)年の紀年銘があります。石造の仁王像は全国で673カ所、1359体が確認されており、群馬県には本町と沼田市で3カ所4体あり、本例はその一つです。もとは横壁諏訪神社の境内にあったものが滝無不動尊に移され、平成27(2015)年11月に現在の石仏公園へ本移設されました。今回は【川原湯岩脈】を紹介いたします。

